

「ごんぎつね」(ひとりごとで読む)

物語「ごんぎつね」の文章の中には、ひとりごとの会話文が多くふくんでいます。

会話文には、二種類があります。

- (1) 相手に語りかけている会話文
- (2) ひとりごとの会話文

次の太字の会話文は、(2)「ひとりごと会話文」です。

ごんは、見つからないように、そうつと草の深いところへ歩きよって、そこからじつとのぞいてみました。

「兵十だな。」と、ごんは思いました。

よそ行きを着物を着て、こしにてぬぐいをさげたりした女たちが、表のかまどで火をたいています。

「ああ、そうしきだ。」と、ごんは思いました。

「兵十の家のだれが死んだんだろう。」

「ははん、死んだのは兵十のおつかあだ。」

その晩、ごんは、あなの中で考えました。

「兵十のおつかあは、どこについて、うなぎが食べたいと言った

にちがいない。それで兵十がはりきりあみを持ち出したんだ。ところ

が、わしがいたずらをして、うなぎをとってきてしまった。だから

兵十は、おつかあにうなぎを食べさせることができなかつた。そのま

まおつかあは、死んじゃったにちがいない。ああ、うなぎが食べたい、

うなぎが食べたいと思しながら、死んだんだろう。ちよつ、あんないた

ずらをしなけりゃよかつた。」

「 「の中の太字の会話文は、ひとりごとで読まなければなりません。

頭の中に浮かんだだけのことばにして、話し手(ごん)の気持ちになつて、

低い、小さい声で、ぼそぼそと、そうつと、つぶやいて読みます。

だれかに語りかけている、だれかとおしゃべりしている言いぶりで

読んではいけません。

物語「ごんぎつね」の文章には、ほかに「ひとりごと」の

会話文がたくさんあります。さがしてみましよう。